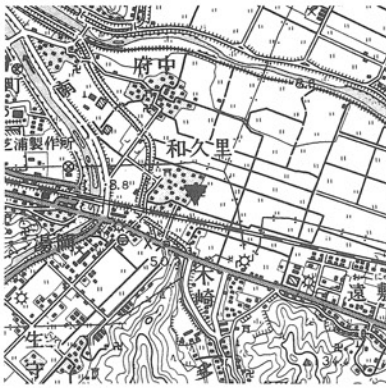


福井・木崎遺跡

- 1 所在地 福井県小浜市木崎
- 2 調査期間 二〇〇六年(平18) 六月～九月
- 3 発掘機関 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 坪田聡子
- 5 遺跡の種類 集落跡・居館跡・自然流路
- 6 遺跡の年代 弥生時代・古墳時代・平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

木崎遺跡は、南川右岸の沖積平野に位置する。舞鶴若狭自動車道建設に伴い、橋脚部分五カ所について発掘調査を実施した。



(熊川)

検出した主な遺構は、弥生時代後期の井戸二基、古墳時代後期の掘立柱建物一棟、井戸一基、自然流路一条などである。掘立柱建物は、南側が調査区外に延びているため未確認であるが、四面廂付き建物の可能性が高いと考えられる。

自然流路からは、弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代(二〇世紀前半)を中心とする遺物が出土した。この中には高台内に「乃井村」と墨書された灰釉陶器の椀一点が含まれている。「乃井」が若狭国濃飯駅と同音である点が注目される資料である。このほかに、包含層から高台内に墨書された灰釉陶器三点がまとまって出土している。これらは筆跡が非常に似ており、「若栗」と記されたもの二点、破損のため「栗」のみ確認できるものが一点ある。「若栗」をワクリと読めば、遺跡の西側に所在する和久里集落を指すと考えられることができる。また、包含層からは緑釉陶器の椀が少なくとも一〇個体以上出土したほか、輪花椀や長頸壺の破片なども出土している。

木簡は、自然流路から一点、自然流路に注ぐ溝SD一(117)の西肩部から一点、掘立柱建物の柱穴SP八六から一点、包含層から一点、計四点が出土した。

8 木簡の釈文・内容

自然流路

(1) □□ (117)×(27)×7 081

SD一

(2) 「ノ乃間田」 128×21×8 033

SP八六

(3) 〔▽□□□一石

包含層

(4) □□

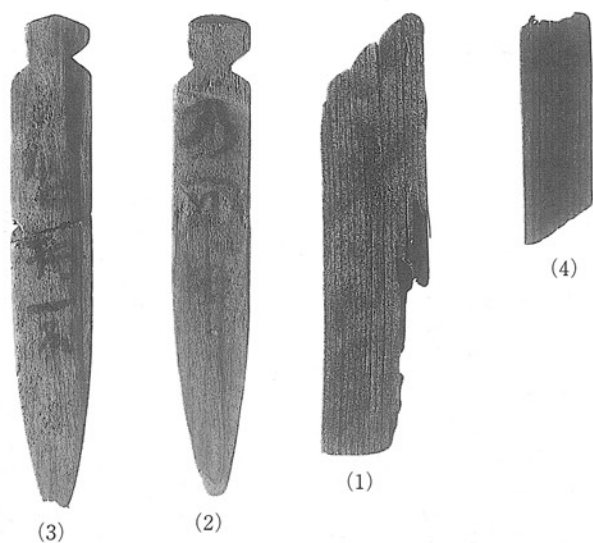
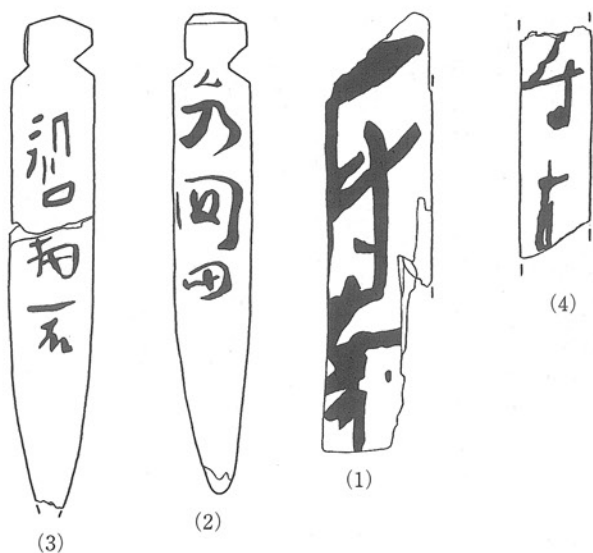
(130)×22×3 033

(62)×19×3 081

(1)は板目材を加工したもので、上下両端と左辺を欠き、原形は不

詳である。(2)(3)は付札木簡である。ともに板目材を加工したもので、上端部の左右両辺に切り込みを入れ、下端を尖らせる形態を呈する。(2)は完形、(3)は下端の一部を欠く。厚さ以外の法量は近似している。(4)は板目材を加工したもので、上下両端を欠損している。
なお、釈読にあたっては、福井県立若狭歴史民俗資料館の方々のご教示を得た。

(坪田聡子)



墨書土器「乃井村」「若栗」